

コンテストの進め方

最後に、作品のコンテスト(団体戦トーナメント方式)を行います。まず、二班ずつが準決勝として対戦します。対戦する二班の長は班員5人の異なる作品計5枚を一束に重ねて紙芝居のように1枚ずつ隣の対戦相手と同じタイミングで順次5回審査員に見せます。対戦しない二班の全班員(欠席者なしで計10名)は、審査員として両班の2作品ずつを質疑なく、白表紙 A3 に描かれた内容のみで勝敗を判断します。その回毎に各班の記録係は自分の班の得点(勝ち数)を教室白板の得点表に記入します。5回終了後、合計得点の多い班を勝者とします。次に、準決勝で勝った2班が、決勝戦に進み、準決勝と同様の方法で勝敗を決めます。

試合の細則

(ア) 班によるトーナメント(勝ち抜き)方式で、準決勝戦が2試合と決勝戦の1試合の計3試合(図-1)を行う。

(イ) 試合は、二班の各班員5人の異なる作品5枚をそれぞれ1枚ずつ5回対戦させる。その順番は決勝戦で組み替えることができるものとする。また、班員数が5人に満たない場合は、最後の班員の作品が残りの回すべてを任される。

(ウ) 対戦する二班には、予め赤又は青の色が定められ、両班長はそれぞれの色の箱の上で作品を紙芝居方式で前から順に一枚ずつ審査員に見せる。

(エ) 審査員は、両面にそれぞれ赤又は青のマークが印刷された札(ふだ)一枚を持つ。(今回は全員が審査員になるので、全員が同札を1枚ずつ持っている。)

(オ) 各審査員は、回毎に提示される2作品を見て、使ってみたいとより強く感じた方を勝ちとし、その班の色マークを表にして札を机の上に置く。審査員は2作品が同じ内容の場合でも、商品のネーミングやイラストの出来栄から判断すること。

(カ) 各班長から指名された班員(記録係)は、回毎に自分の班の色マークの札数を数え、教室白板の表-1 にそれぞれ記入する。

(キ) 対戦班同士の合計点が同一の場合、各回で点数の多い方の班に1点ずつを加算し、勝敗を決める。それでも同点の場合は、両班長のジャンケンで決める。例えば、表-2 の場合、○班は $25+1=26$ 、□班は $25+2=27$ となり、□班の勝ちとなる。

図-1

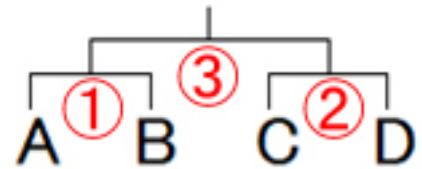
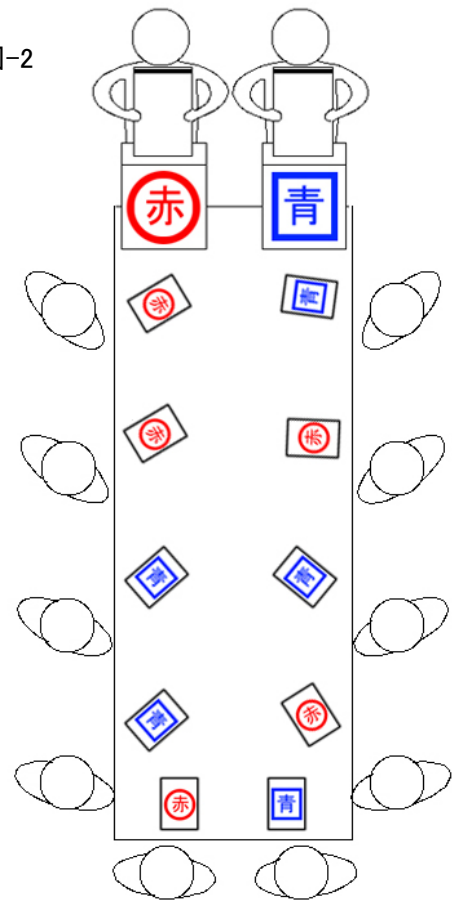


図-2



※図-2 は審査員10名で5対5を示す

表-1

	1回	2回	3回	4回	5回	合計
○班						
□班						

表-2

	1回	2回	3回	4回	5回	合計
○班	5	8	3	4	5	25
□班	5	2	7	6	5	25